

平成29年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画					
学校運営方針	佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな知性と人間性を身に付け、世界的な視野で活躍できる人を育成する。 ①知性・人間性・郷土愛の育成を三本柱に、生徒が帰属意識を持って前向きに学校生活を送ることができるよう全職員で取り組む。 ②6年間の教育活動を生かし、全職員で学力の向上と進路意識の醸成に取り組む。生徒が佐渡を愛し、将来社会に貢献したいという志を育むとともに、高い目標を持たせてその進路実現を図る。				
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標			
全職員が公開授業を実施し授業改善に努めた。また、6年間を見通して総合的な学習の時間の指導計画を改善した。今後さらに、進路指導、学習指導、生徒指導において6年間を見通した組織的な活動ができるような指導計画の作成・改善が課題である。	学校運営の組織マネジメントの確立	・組織の体制づくり ・教育活動の反省と記録の蓄積			
	自己実現に向けた確かな学力の育成	・家庭学習を含めた学習習慣の確立 ・6年間のシラバスの作成と有効活用			
	豊かな心と健やかな身体の育成	・望ましい人間関係の構築 ・自己有用感の育成			
	郷土を愛し地域に貢献する態度の育成	・「能楽」の実施と「佐渡学」の充実 ・グローバル人材育成への取組充実			
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
学習指導	学習習慣の確立	家庭学習課題の明示と毎日の点検、補充の指導の充実	A	B	
		学び方の指導の徹底	A		
		学習規律の徹底	B		
		各種検定試験への積極的参加の推奨	A		
	分かる授業と学び合う授業の実践	学び合いの集団作りとアクティブ・ラーニングの充実	B		B
		発展的な学習内容の充実	B		B
6年間を見通した系統的な指導	シラバスの作成とシラバスを活用した学習指導の実施	B	B		
	家庭学習カードを用いた家庭学習の奨励と点検	A			
進路指導	進路講演会や行事、体験を通しての自己理解と支援	A			
	後期生の進路実現を目指した具体的目標の達成	大学入試への対応 ①大学進学率70%以上（大学入試センター試験受験率100%） ②国公立大学合格者21名以上（在籍生徒の30%以上） ③進研模試偏差値 4 学年3教科（国数英）偏差値56以上 5 学年3教科（国数英）偏差値56以上 6 学年5教科（国数英理地公）偏差値58以上	B	B	
総合的な学習	課題追究方法の習得及び発表力・表現力の育成	各学年のテーマに沿った調べ学習や学び合いを通じた課題追究の方法の習得	B	B	
		学習発表会や校内発表会等に向けた発表力や表現力の育成	A		
	郷土を愛する心の育成	スクール・カルチャー「能楽」や「佐渡学」の実施	A		A
	進路意識の高揚	生き方や将来について考え、進路実現に向けた取組への啓発活動	B		B
世界的視野の育成	海外研修旅行の実施と国際交流	A	A		
	特別活動等	望ましい集団づくり	学活、行事での協力体制づくりと異年齢集団の活動への支援 生徒の自主自立を育む生徒会の支援 Q-U調査を利用した生徒理解と集団への所属感の育成	A	A
道徳	思いやりの心の育成	認め合い高め合う集団作りの指導	A	B	
		ボランティア活動の実施	B		
生徒指導	望ましい人間関係の構築	Q-U調査やエンカウンターを取り入れた取組の実施	B	B	
		教育相談、特別支援教育による実態に即した指導	A		
	基本的生活習慣の確立	服装、時間、きまりやネットモラルの遵守の徹底指導	B	B	
		生活ノート等の点検や教育相談によるきめ細かな指導	A	B	
いじめや生徒の悩みへの対応	いじめ問題に対して全教職員で情報を共有する。そのためアンケートを年に2回以上実施して、いじめや生徒の悩みの早期発見に努め、迅速な解決を図る。	A	A		
成果	全職員が授業改善に取り組み、継続的な研修ができる体制を確立できた。また、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の系統的な取組が始められた。今後引き続き6年間を見通した組織的な活動ができるような指導計画の作成・改善が課題である。		総合評価	B	

平成29年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを取り入れた授業についてを全授業担当者で授業公開と研修を行った。そして研修の成果と課題を明確にし継続した研修ができるよう実践集録を発刊した。これから求められる資質・能力の育成に資する授業ができる教員集団を形成する。 ・進級するにしたがって拡大する学力差を解消するために、個に応じた丁寧な教科指導をする必要がある。また、自ら課題を設定し家庭学習ができるよう、授業の導入・終末を工夫するとともに、「集中等タイム」を工夫し、生徒の自学・家庭学習を充実させる。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路を最終的に決定するまでの進路研究が十分でないことなどから、6学年になってから、進路志望の変更があったり、志望先が明確でないために準備が不十分になることがあった。進路決定まで、早い段階から継続した指導が必要である。 ・進路ガイダンス、説明会、講演会、保護者対象説明会等を計画的、段階的に実施し、進路意識の啓発をはかり、生徒の進路意識を醸成する。 ・多様な生徒の進路志望に対応するために、学級担任と進路指導部の連携を強め、さらに保護者との連携を深め、生徒の実態に応じたきめ細かな進路指導を継続する。
総合的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程における「総合体験UP」を中心とした取組や5・6年の登山を通して、佐渡のよさや課題を学ぶことができた。また、「能楽」の取組では、発表会に向けた取組を通して達成感や充実感を得ることができた。以上の取組を通して、全校の約70%（前年度比プラス5%）の生徒が郷土を愛し、地域に貢献しようとする気持ちをもつことができた。 ・今年度は、2～5学年で地域の人材を活用したキャリア教育の取組を行ったことで、将来についての夢や希望をもたせたり、地域から課題を見いださせることができた。この取組に系統性を持たせ、年間指導計画に位置づけていくことが今後の課題である。
特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・「中等集会（いじめ根絶）」や体育祭・文化祭をとおして、異年齢集団による取組ができた。 ・生徒の自発性や粘り強さを育てるような生徒会活動の充実が課題である。
道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育、同和教育委員会と連携し、効果的な学習を進めることができた。 ・特別の教科「道徳」本格実施に向け、授業力をつけていくことが引き続き課題である。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回のQUテストの実施と活用、特別支援教育支援員やスクールカウンセラーの活用、生徒と教員との面談を充実させ、学級・学年での人間関係を丁寧に見とり、集団作りに活かすことができた。 ・規律ある生活態度や服装の規範意識を高めるよう指導を行っている。さらに基本的な生活面として、進んであいさつをする習慣を身につけていくことが課題である。 ・パソコンやスマートフォンを中心とする情報機器利用に関する指導を通じて、ネットモラルを身につけ、いじめに関する指導と結びつける。 ・欠席者数、保健室利用者数の割合が高くなっている。指導・支援の改善や家庭・地域との連携の面から心身の健康が保持できるような体制づくりが課題である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「6年間で生徒を育てる」という使命の下、中等教育学校の特色を生かす教育活動の展開と教師の構えが引き続き求められる。